

## 豪ドル、RBA 理事会に要注目

- ◆豪ドル、7月のRBA理事会は債券買い入れ延長の判断で今まで以上に注目
- ◆豪ドル、デルタ株感染拡大の行方には要警戒
- ◆ZAR、SARB副総裁は利上げの可能性を示唆もデルタ株の影響が懸念材料

### 予想レンジ

豪ドル円 82.00-86.00 円

南ア・ランド円 7.60-8.20 円

### 7月5日週の展望

豪ドルは大きく動く可能性がある。来週の最大の注目は、6日に行われる豪準備銀行（RBA）理事会だ。5月の理事会で、7月に債券買い入れ延長などについて判断すると発表しており、注目度が兼ねてから高い。6月の米連邦公開市場委員会（FOMC）では、米連邦準備理事会（FRB）の利上げ時期の前倒しが予想されたこともあり、RBAの動向に注目が集まっている。豪州の経済指標は雇用指標をはじめ好結果が続き、力強い回復傾向がうかがわれる。しかしながら、この数週間で新型コロナウイルス・デルタ株が豪州でも観測されるようになり、再び厳しいロックダウンを各州が実行している。雇用主が米国よりも賃上げに積極的になっていないことなどが、豪州の金融正常化の足かせとの声もある。RBAがどのような見解を示すかは、極端に予想が分かれているが、どのような結果になったとしても、市場は大きく動く可能性が高いとみている。

その他、経済指標では5日に5月小売売上高と住宅建設許可件数が発表される。両指標とも理事会前日ということもあり、市場が動意づくのは難しそう。なお、ロウ豪準備銀行（RBA）総裁は理事会当日の6日と8日にそれぞれ会見が予定されている。

また、上述したようにデルタ株の感染が拡大していることには要警戒。豪州は感染を抑えている反面、ワクチンの普及が他国よりも遅れている。感染拡大は豪ドルの重石になるだろう。

南アフリカ・ランド（ZAR）はもみ合となるか。ハウテン州を中心に新型コロナウイルス・デルタ株の感染が拡大。ロックダウンの規制水準が引き上げられたことはZARの上値を抑える要因になっている。もっとも、南ア準備銀行（SARB）のナイドゥ副総裁は今回のロックダウン強化について、「厳格な規制強化は経済減速とはなるが、景気回復を損なうことはない」と述べている。金利については「成長を支えるために金融緩和政策を維持する」とした一方で、消費者物価指数（CPI）が上昇していることから、「現在はマイナス金利の状態、50 ベーシス利上げしてもまだマイナス金利。金利を永久に（現在の）3.5%に維持することはできない」とも発言している。来週は主だった経済指標の発表は予定されていないが、神経質な動きを見せているコモディティ価格や、上述したウイルス感染及びロックダウンの経済的な影響がどの程度南ア経済に影響をもたらすかを注意しながらの取引になりそう。

### 6月28日週の回顧

豪ドルは上値が重く推移した。週初から新型コロナウイルス・デルタ株の感染拡大によるロックダウンが始まったことを嫌気し、軟調に推移した。コモディティ価格が弱含んだことも、資源国通貨の動きに敏感に反応する豪ドルにとっては売り要因となった。

ZARは軟調に推移した。6月27日にラマポーザ南ア大統領が、ウイルス感染拡大によりロックダウンの水準をレベル3からレベル4に引き上げた。規制強化による経済の停滞を懸念し、ZARは週明けこそ重かったが、徐々に下げ幅を取り戻した。（了）